

遠足と携帶品

醫學博士 竹野芳次郎 (談)

春にはお子様達が御母様につれられたり、或は學校の先生方につれられたりして、遠足をなさる事が多くなります。折角面白い遠足でも、もしお子様方が途中で怪我をなすつたり、或は腹痛みをおこしたりしては、遠足の興味はすつかり心配に代つてしまひます。これから遠足には是非持参して行かなければならない。簡單で然し必要な衛生道具をすこしばかりお話して置きます。

遠足でお子様達に起るのは、足の骨を折るとか、脊中の骨を折るとか云つたやうな大怪我ではなくつて、一寸とした切り傷、すり傷をこしらへることが多いのです。傷の手當に使用する爲に、先づ繃帶「ガーズ」脱脂綿、五十倍の硼酸水、絆創膏、デルマトール等です。デルマトールと云ふのは、黄い粉で、傷をして出血した時、其の粉をぬりかけますと、デルマトールは皮膚を乾燥する作用があるものですから、傷の部分が乾いて、従つて出血も止まる事になるの

です。傷の手當として、石炭酸、昇汞水等は、なるべく持参しない方がよいのです。石炭酸は劇薬でありますから、小さな傷に用ひては却て害する事がありまし、昇汞水は醫師が手を洗ふて消毒するに用ひるもので、矢張り劇薬です、遠足等では、傷の手當をするに、嚴重に手を消毒しなくてはならないやうな大怪我は起りませんし、若し、小さいお子さん達が過つて昇汞水を口にされたりしては、それこそ大變な事になりますから、御持参なさらない方がよいと思ひます。硼酸水は、石炭酸や昇汞水の役目を充分致します。林檎を食べやうとして、ナイフで指を切つたやうな場合には、硼酸水で消毒し、もし澤山出血してゐるやうでしたら、デルマトールを振りかけ、ガーズをあて、亞麻仁油紙をそへて、繃帶をして置けばよろしいのです、こんな時に、繃帶の仕方を心得てゐると居ないとは、大變な手當の上になら何相違があります。ナイフで指を一寸切つた位なら何

もそんなに繻帯にむづかしい事はありませんが、それでも繻帯のかけ方がわるいと、する／＼とはづれて来て、お子さん方に迷惑をさせますから、餘程氣をつけてしなければなりません。家庭の母親達も、又幼い子達を毎日導く先生方も、常に繻帯のかけ方とか、應急手當とかは、常識として練習をして置く必要があります。石につまづいて足をすりむいたと云ふ様なすり傷は、よく土をおとして洗つて、硼酸軟膏をぬりつけて置けばよろしいです。

遠足の時には、怪我するよりも、靴をはいて長く小路を歩いたので、底豆が出来た等と云ふ事は、却て多いものです。底豆は、早くつぶして、硼酸軟膏をぬつて置いた方が、治りが早うございます。子供は、底豆が出ると、ひどく痛いものですから、中々つぶさせませんが、よく云ひきかして、つぶすのに痛いものではないから、却てつぶした方がよくなるからと教へて、手當をしてやつた方がよいのです。又餘り歩き過ぎて、足がはれたり、痛んだりする時は、十%のエスチオール、アルコホルを、脱脂綿につけてぬつてやり、油紙をあて、繻帯をして置きます。次には遠足にはよく起る腹痛や、はきくだしです。

私がつつと以前の事ですが、ある學校から依頼されて遠足につきそふて行つた事があります。すると子供さん達は、大きな袋を重たさうにひつさげ、お互ひに自慢さうにしてゐるのです。そしてその袋の中に何がつまつてゐるかど云ふと、お饅頭やら、落花生やら、まるでお菓子屋の店のやうな御馳走の様々が表れ出しました。そしてあたにはこれをお上りなさい、これを差上げませうと、互ひにやりとりしてゐたのを見ました。これが腹痛や、はきくだしの原因になるのです。この根本原因をすつかり改めなくては遠足のある毎に、いつも腹痛や、はきくだしがたへないわけです。遠足で常に歩いたことのない遠い路を歩いて身體が疲労し、水分が缺乏してゐる時に、さう無闇みに食するのは、胃腸の働きを害するが故に、食事も注意してお腹のすいたのにまかせて矢鱈に食してはなりません。まづ腹痛や吐きくだしのお薬としては、重曹とクミチンキ、單舎利別コロダイン等を用意して持参します。コロダインには、はつきりとは解りませんが、モルヒネが含まれてゐるやうに思はれます、腹痛には大變よくきく薬品です、二三滴水に落して飲むのです。重曹は、茶飲み

茶碗一杯に茶匙に軽く半分入れ、クミチンキを十滴位おとして、若しにがいやうでしたら單舍利別を入れて、甘味をつけて用ひます、この分量は十歳前後のお子さん達に恰度よい加減ですから、幼稚園に通ふて居られる子供達には、この半量位にすれば結構です。それから腹痛の時に用ひる爲に、湯タンポを用意してゆけば、尙結構です。湯タンポも、荷になるやうな大きいのでは、携帯に不便ですから近頃出來たゴム湯タンポですと、小さく折りたゝんで持ち歩く事が出來ますから、便利です。お腹が痛み出した時には、近所の百姓家などにやすませて、湯タンポを用ひて暖めると、直ぐ治る事があります。

又春の草がのびて來ると、蟲が澤山野山にゐて、可愛らしいお子さん達の足を刺します。蜂やブヨに刺られた時には、アンモニアがよろしいです。薬品屋に行つてアンモニア水と云へば、直ぐ用ひられるやうにした罐づめのが求められます。蛇にかまれるやうなことは、東京近郊には餘りありませんし、又遠足を催す時には、注意してそんな恐れのあるところには、小さいお子さんの事ですから、連れて行かれない方がよろしいと思ひます。蛇にかまれた時は、

毒が全身にまわらぬやうに、早く傷口に近い所をかくしつて、血液の循環をどめて置いて、醫師の手當を待たなければなりません。かまれた傷口をいぢつてゐると、却てその爲に毒がまわり易くなりますから、決して猶豫する事なく、血液の循環をどめる手當をせねばなりません。

これは遠足に行つた折に起る事ではありませんが春になると毎年のやうに、市内には狂犬にかまれる方が澤山出て來ます。狂犬にかまれたな、と思つたら、矢張り蛇の時と同じやうに、かまれた所から、毒が全身にまわらぬようかたく紐か何かで結はいて置いて、近所の醫師の下にかけつけて、豫防注射をして置けばよろしいのです。豫防注射は、狂犬病の血清を體內に注射するので、それに依りて抗毒素を體內に發せしめ、狂犬の牙より侵入した毒に抵抗せしめるのです。

先づ遠足にお子様を連れて行く注意としてはこんなものです。遠足から歸つて來ましたら、入湯をさせ、疲勞を癒やし血液の循環をよくして、睡眠を充分にさせます。かうして疲れを療せば、遠足の效能は尙一段とある事になります。